

# 7) 海洋文化館の利活用促進にかかる事業

木下靖子<sup>1</sup>・板井英伸<sup>2</sup>

キーワード：海洋文化館、展示資料の魅力発信、海洋文化講座、地域連携

## 1. はじめに

海洋博公園の海洋文化館は、沖縄を含む太平洋島嶼域の海洋文化に関する資料を展示する施設である。本施設の魅力を発信し、知名度の向上と利用促進を図ることを目的に、「海洋文化講座」と題し、太平洋島嶼域の海洋文化を題材とした一般向け館内ガイドツアーおよびギャラリートークを実施した。実施は海洋博公園管理センターと共同であり、総合研究所が行っている海洋文化に関する調査研究の成果を積極的に活用し、発信した。

## 2. 講座・企画展・ワークショップの実施

### 1) 海洋文化館

今年度は一般向けに海洋文化館を会場として「海洋文化講座」を4回実施した(表-1)。集客は定員20名に対し、各回ほぼ満席であった。新聞での複数回の告知、過去の参加者へのDM送付による告知が集客に効果的であった。講座の構成は、約1時間座学でスライドを用いた講義を行った後、館内の展示を実際に見て回りながら解説を行うというものである(写真-1)。

表-1 海洋文化講座

6/23	海洋文化講座「海洋文化館のお仕事 資料保全と普及啓発 守り・残し・伝える」
8/11	海洋文化講座「海洋文化館のお仕事 調査研究①沖縄の海洋文化 仮面・仮装の来訪」
10/13	海洋文化講座「海洋文化館のお仕事 調査研究②太平洋の海洋文化 星と航海術」
12/1	海洋文化講座「海洋文化館のお仕事 地域貢献 沖縄の船・サバニ」
12/22 ~1/26	企画展「沖縄のウミンチュの世界『潜る』古谷千佳子写真展」



写真-1 海洋文化館講座

また12月には、海洋文化館の沖縄の漁撈に関する展示に写真を提供している写真家、古谷千佳子氏の企画展を行った。古谷氏が沖縄県内各地で撮影を行った、素潜り漁業者による漁撈活動の現場の写真を集め開催した(写真-2)。



写真-2 企画展「沖縄ウミンチュの世界『潜る』」

### 2) 沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)

今年度は一般向けに沖縄県立博物館・美術館の博物館講座室にて、「出張海洋文化講座」を全4回開催した(表-2)。定員50名に対して参加者は各回15名程度であった。講座では各回の終了後、総合評価、講師の説明、教材、情報入手経路などアンケート結果を分析し、講座内容や告知方法の改善を図った。講座ではスライドを用い講義を行う他、講演者が調査地から持ち帰った資料を参加者に直接触ってもらう時間を設け、海洋文化館の展示資料に興味関心が結びつくようにした(写真-3)。

表-2 出張海洋文化講座

5/26	出張海洋文化講座「海洋文化館のお仕事 守り・残し・伝える」
7/20	出張海洋文化講座「南太平洋の多様な食文化」
9/8	出張海洋文化講座「南太平洋の多様な漁撈文化」
11/10	出張海洋文化講座「南太平洋の多様な樹皮布文化」

<sup>1</sup>普及開発課 <sup>2</sup>企画運営課



写真-3 調査資料（樹皮布）を観察する参加者

海洋文化館と那覇のおきみゅーでの9回の講演会、企画展、さらには美ら島自然学校でのワークショップは、意欲的で体系的な公開講座であり、総計200名を超す参加者を対象に開催できた点で注目される。また、講演の目的と内容は仮面・仮装儀礼、航海術、サバニ、伝統船、海人・漁労文化、食文化、衣文化など海洋文化館の展示資料との関連性を念頭におき、ワークショップではパンダナス・アダンの葉製ボールづくりやウミガメ祭りなど、沖縄と太平洋の海洋文化ともものづくり技術にみられる共通性を発見して関心を深めてもらうねらいがあり、高く評価できる。  
(須藤顧問：堺市立博物館館長)

### 3) 美ら島自然学校他

美ら島自然学校内のトゲナシアダンの葉を使用し、アジア・オセアニア・沖縄など、南太平洋の文化を体験できるワークショップの開発を行った。小学生以上から参加できるように、工作の内容を企画した。潮乃森ビーチフェスタ（沖縄市）、自然学校ウミガメまつりとともに、参加者は各回約10名、1日3回実施し、延べ約50名が参加した（表-3）（写真-4）。

表-3 美ら島自然学校におけるワークショップ

9/7	潮乃森ビーチフェスタ（沖縄市）ワークショップ「アダンボールをつくろう」
12/1	自然学校ウミガメまつり ワークショップ「アダンボールをつくろう」



写真-4 アダンの葉を用いたワークショップ

### 3. 外部評価委員会コメント

海洋文化館をベースに、一般市民への知識の還元而努力している姿勢が具体的に見られる。「アジア・オセアニア・沖縄など、南太平洋の文化を体験できるワークショップ」や「アジア・オセアニアの海洋文化に関する新しいコンテンツの創出」の具体的内容については会議の席上で伺いたいのと、参加者の内訳、あるいは過去の参加者のその後について（どのようにそれぞれ参加者が経験を活かしているか）も伺いたい。

(後藤顧問：南山大学人類学研究所特任研究員)